

平成31年度・令和元年度 学校評価総括表

奈良県立畝傍高等学校(全日制)

<p>教育目標</p>	<p>日本国憲法・教育基本法及び学校教育法に定められた教育の根本精神に基づき、人権の尊重を基底とした民主的な社会の形成者として必要な資質を養い、豊かな文化の創造に寄与する心身ともにたくましい生徒の育成を目指す。</p>		<p>総合評価</p>	
<p>運営方針</p>	<p>「SGH事業」の成果や「地域との協働による高等学校教育改革推進事業(グローバル型)」の目的を踏まえ、課題研究や各教科、体験的な学習を有機的に関連させることにより、知・徳・体の調和のとれた、自主的・創造的でグローバルな視野をもった次代のリーダーの育成を目指す。</p>			
<p>令和元年度の成果と課題</p>		<p>本年度重点目標</p>	<p>具体的目標</p>	<p>B</p>
<p>○学校設定教科や課題研究の取組によって、生徒の課題発見、設定に関わる力、表現する力に向上が見られた。また、「未来創造会議」の運営についても新たな試みで実施することができた。</p>		<p>(Communicate) 自己理解や他者との関わりをとおして、コミュニケーション力の向上を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自己についての省察や他者を思う心を養い、自分の考えを正確に伝える力を育成する。</li> <li>学校行事などの諸活動をとおして、様々な意見や考え方に触れ、合意形成を図ったり意志決定したりする能力を高める。</li> </ul>	
<p>○第2学年生徒が海外研修を体験したことで、海外に目を向けるとともに様々な社会問題に課題認識をもつなど、生徒の意識変化が認められた。</p>		<p>(Collaborate) 社会の一員としての自覚を促し、他者と協働する能力を養う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>社会のルールやマナーを身に付けた生徒を育成する。</li> <li>様々な教育活動をとおして、自他の個性を理解して尊重し、信頼し合える人間関係が構築できるよう支援する。</li> <li>地域や他の教育機関等との連携を推進する。</li> </ul>	
<p>○カリキュラム研究を進め、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を図るとともに、地域との協働による高等学校教育改革推進事業に向け、来年度の課題研究の円滑な実施に向けた研修を行い、教職員のコンセンサスを図った。</p> <p>○コミュニティスクールを令和3年度に実施するため、来年度にその準備をはじめめる。</p>		<p>(Consider) 探究的な学びをとおして、主体的に物事を考える習慣や論理的な思考力を養う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業公開や研修会などを積極的に行い、アクティブラーニング(主体的・対話的で深い学び)が各教科で実践されるように指導方法の工夫改善に取り組む。</li> <li>各授業や課題研究等をとおして、知識・技能の定着や学習意欲の向上を図るとともに、思考力、判断力、表現力を育成する指導を実践する。</li> </ul>	
		<p>(Challenge) 自分の夢や将来を見据えた進路を設計する力を養い、その実現に向けて弛まず挑戦する強い意志を育てる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自らの在り方や生き方を深く考えさせ、将来を見据えた進路希望がもてるよう、各教科・科目等の特質に応じて、キャリア教育の充実を図る。</li> <li>自己実現に向けて自ら必要な情報の収集する力を養い、様々な角度から適切な指導が行える体制づくりを図る。</li> </ul>	

評価項目	具体的目標 (評価小項目)	具体的方策・評価指標	自己評価 結果 (A～E)	成果と課題	改善方法等	学校関係者 評価(結果・分析) 及び改善方法
総務企画	教育体制の刷新に伴う整備と教職員の指導力向上に取り組む。	新規グローバル事業の取組や各種模試・調査等の分析を各分掌や各教科で定期的に行い、充実した教育体制を構築すると共に進学指導やキャリア教育のより効果的な改善に資するための提案に努める。	C	<ul style="list-style-type: none"> <li>各種アンケート等を定期的に実施し、校内外からの意見をいただき整理することができた。5月に10連休があったが、少しだが学期末の試験前において授業時間を確保することができた。</li> <li>授業アンケートでは生徒自身の授業への取組を振り返る質問項目を加え、精選した。また、アンケートの趣旨を十分に説明してからアンケートを実施した。</li> <li>学校説明会では参加者が昨年より少し減少した。スムーズに運営ができた。生徒中心の運営に対して良い評価をいただいた。アンケートの回収率が悪かった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>来年度から第2学年で実施する課題研究に向けて、全職員の共通理解や連携を密にするため、定期的な打ち合わせを設定する。さらに、このことで多様な課題研究の状況を把握でき、適切な指導に繋がると共に進路についても考えさせることができる。</li> <li>学校説明会の中で、課題研究の取組についての説明や発表の実施について検討したい。また、アンケートのご協力を重ねてアナウンスし、校門前にアンケート記入用のデスクを設置する。</li> </ul>	概ね良好である。
		学校評価、生徒による授業評価、保護者アンケートを実施することによって、生徒の実態や保護者の意識を把握するとともに、教育活動を点検し教職員の指導力向上を目指す。	B			
	畝傍高校の特徴が際立つ広報活動と募集活動を推進する。	生徒会の協力も得ながら中学生対象の学校説明会を生徒主体で開催し、また、校外で実施される説明会等へも積極的に参加する。	A			
教育企画	使命感と実行力をもつリーダーの育成を目的とし、課題意識をもって研究に取り組む主体性をもった生徒の育成を図る。	課題研究についての研究開発と実践をとおり、生徒の語学力、コミュニケーション力を向上させ、社会への関心を高め、協働して課題を解決する力を育成する。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>次年度に向けて、1年次の取組、2年での「課題研究」を含めたグランドデザイン及び研修等の準備を予定どおり進めることができた。</li> <li>SDGsを中心に据えることで社会と研究との関わり、自らの進路への意識を醸成した。研究を進路に用いる意識が高まった。</li> <li>生徒の意欲を引き出す新たな「現代の課題α」の取組として、既卒生との交流や冬期の自主FWなどの改革を進めた。</li> <li>各種発表会、交流事業、留学支援等も、多数の先生方の協力を得て、生徒を主体として予定通り進めることができた。</li> <li>新事業の取組として、新たに配置された支援員、コーディネータとの連携、その活用が不十分で生かし切れない面があった。</li> <li>改めて、現状の日程、指導体制で研究を深化させていくことに課題があることが、各種発表への取組を通して明らかになった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>成果のうち次年度の計画としたこと(特に1年次の取組及び2年「課題研究」)については、分掌のみならず全職員でその趣旨を共有した上で、着実な実施を図る。</li> <li>「現代の課題α(次年度は『課題研究α』)」の内容も、今年度の結果から更にPDCAを重ねる。SGHの遺産を引き続き生かしていく。</li> <li>「課題研究」の成果を自らの進路に生かしていくことができるよう、意識のさせ方、まとめ方、記録の仕方について更に研究する。</li> <li>支援員やコーディネータとの連携、活用方法について、4月当初から企画部内で協議する。</li> <li>新しい取組も始まることから、本分掌全体の日程、指導体制等を、「課題研究を意義あるものとするために」という視点で見直す。</li> <li>令和2年度に計画される新しい教育課程の策定に向け、積極的な情報提供、提案を行っていける体制を構築する。</li> </ul>	概ね良好である。
	グローバルな視点で、将来的に地域や世界で活躍する展望をもつ生徒の育成を図る。	生徒が主体性を持ち、リーダーに必要な自覚や能力をもって学習に臨めるよう、指導の改善、指導計画の策定、評価の改善に取り組む。	B			
		教科・科目での指導をはじめ、未来創造会議や課題研究発表会、交流事業や留学支援、キャリア指導などの事業に全職員・生徒が取り組めるよう適切に調整する。	C			
教務	学校の教育活動が円滑に運営されるよう、調整を行う。	教務に関する校内規程の点検を継続的にを行い、生徒の多様化や学習環境の変化に対応して改善を進める。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>校務支援システムへの対応や賢者への移行を実施した。システムの不具合が出ており、今後の対応が急がれる。</li> <li>特別時間割をはじめ学校行事やLHR等に関係する時間割変更を、授業時間の確保を考慮した形で行った。曜日による授業数の差をすべて調整しきれなかった。</li> <li>45分授業に対する時間割編成や運用をスムーズに移行できた。総授業時間数は減少となったので、その対応が必要である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>校務支援システムについてさらに研究を深め、円滑な運用を進める。</li> <li>各曜日の授業時間のばらつきを調整するため、定期考査ごとに曜日変更を伴う時間割の振替を来年度においても実施する。</li> <li>授業時間数の確保については、行事の精選や日程の調整で対応していく。今後は抜本的な日程変更も検討する必要がある。</li> </ul>	概ね良好である。
		学校行事の効果的かつ円滑な実施と授業時間の確保のために、日程等の調整及び特別時間割を含めた適切な時間割の編成を行う。	A			
	特色ある学校づくりをめざし、教育活動の工夫改善を行う。	学習指導要領の趣旨に沿い、現行の教育課程の問題点等を検討・整理し、生徒の実態や進路希望等に対応する教育課程の編成に努める。また、今後の教育課程について次期学習指導要領を見据えながら検討する。	A			
	「未来創造会議」や「奈良TIME」に係る取組(特に、修学旅行やフィールドワーク)について、当該学年との連携を図り、より効果的な実施に努める。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>教育課程の編成について、生徒各自の学習環境の変化や進路希望の多様化に対応できるように、各教科において検討を進めることができた。</li> <li>来年度実施される課題研究への時間割構成を整えることができた。</li> <li>学習指導要領の実施に向けて、教育課程の編成や授業改善にさらに取り組む必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>新学習指導要領の趣旨を踏まえ、授業内容の更新を促していく。また、類型の特色を生かすこと、大学入試の変更点を考慮することなどについて検討を進めていく。</li> <li>課題研究の研究開発の取組が、効果的かつ組織的に進むことができるように教科間の密接な連携を図る。</li> <li>学習内容のさらなる定着を促すため、全ての教員の授業改善を進めていく方策を見つければいけない。</li> </ul>	概ね良好である。	
	課題研究に係るカリキュラム研究を継続的に進めるとともに、アクティブラーニングに関する授業改善に向けた研修等の推進を図る。	B				

評価項目	具体的目標 (評価小項目)	具体的方策・評価指標	自己評価 結果 (A～E)	成果と課題	改善方法等	学校関係者 評価(結果・分析) 及び改善方法
生徒指導	基本的生活習慣の確立	遅刻カードを活用し不注意による遅刻を防ぎ、継続的な服装・頭髪・遅刻指導等を通じて、規範意識を高めさせる。	B	<p>・継続的な遅刻指導や定期的な服装頭髪点検を行うことで改善傾向にある。「基本的生活習慣」という点においては、多くの生徒が問題なく学校生活を送っているが、軽微な遅刻を繰り返す生徒、服装・頭髪の乱れが改善しない生徒も少なからずいる。</p> <p>・個人ロッカー周辺及び男女更衣室の私物放置はほぼ改善された。しかし、大半の生徒が個人ロッカーの施錠を行っていない現実がある。また物品を紛失しても落とし物ケースを確認しない等「モノを大切に」という意識の低さを感じる。</p> <p>・多くの先生にご協力いただき、立哨指導を充実させたおかげで、通学マナーは向上傾向にあると言える。まだまだ課題は山積の状態なので、一つ一つ改善して行きたい。</p> <p>・生活委員だけでなくクラブ員にも参加してもらい挨拶運動の強化に努めた。生徒指導部や学年の先生方の協力の下、登校指導も充実させ、朝の校門周辺は活気があるが、「その時だけ」「その場だけ」の傾向は強い。どのような場面でも挨拶が励行できるようになってもらいたい。</p> <p>・掲示板等を情報発信で利用した。カウンセラーとの連絡を密にとりながら活動を行った。カウンセリングは常に1ヶ月待ちの状況であり、保護者の継続的な相談も増加傾向にある。様々なケースに対して、迅速な対応が課題となっている。</p> <p>・職員研修では、先生方やスクールカウンセラー等のご協力をいただきながら、配慮を要する生徒の状況について、共通理解を深める取り組みを行った。事例研究では、具体的な取り組みの実践例を通して、今後の指導の参考となる情報共有を行った。</p>	<p>・正しい生活態度や、自律ある集団行動様式を身に付けさせるために必要な、「規則の遵守」「端正な服装」「挨拶の励行」「時間の厳守」等、当たり前のことを当たり前にできるように自立した生活をさせたい。そのためには繰り返し粘り強く、生徒と向き合い導く努力が必要である。教師相互の共通理解と連携を密にし、きめ細かい指導に努める。</p> <p>・具体的方策としては、遅刻生に対する個別指導を充実させる。学級、教科、クラブにおいて、私物に対する記名を確実にさせてもらい、モノを大切に、貴重品の管理を徹底するという意識を醸成させる。</p> <p>・交通安全教室を実施することで、道路交通法規の遵守、交通マナーの向上につなげる。</p> <p>・時差登校、分散登校をこれまで以上に充実させ、混雑緩和を図る。</p> <p>・挨拶運動、登下校指導を継続する。また、言葉遣いや職員、研究室等へ入室マナーも高めていく。</p> <p>・スマートフォンの利用については、安易な考えや身勝手な行動が、大きな問題になり得ることを自覚させる。</p>	概ね良好である。特に、評議員の方からは登校マナーが向上したとの評価を得ている。
	貴重品の管理	教室・部室・個人ロッカーなどの施錠を徹底させ、個人ロッカー周辺の放置私物の指導を徹底し、自己管理意識を高めさせる。	B			
	通学マナーの向上	自転車通学生に両合羽着用など事故防止対策を推進する。また、登下校指導を通じて交通法規及びマナーを遵守させ、安全意識を高めさせる。	B			
	活気ある学校づくり	生活委員による挨拶運動を広げ、教員による登下校指導とも融合させ、活気ある学校づくりを目指す。	B			
	生徒の「心の健康」の増進を図る。	電子掲示板を活用し、「心の健康」に関する情報を発信し、スクールカウンセラーとの連絡・情報交換を適切に遂行し、相談活動を円滑に行う。	B			
教職員向けに、教育相談に関する情報・研修の機会を提供する。	年3回の職員研修を企画し、生徒理解を深める一助とする。また、外部の相談機関との迅速な連携に努めるとともに、研修事業の情報を遅滞なく伝達する。	B	<p>・担任の先生方の適切な対応に助けられることが多いが、生徒の変化に対して早め早めの対応が重要となっている。今年度は、外部機関との連携のもとに、事例検討会も実施された。状況に応じて、今後も外部機関との連携が重要となっている。</p> <p>・生徒の状況の把握と、先生方の取り組みの成果の情報共有ができるような研修を進めていきたい。外部機関の研修講座など、多岐に渡るテーマについて、多くの先生方に参加いただけたよう迅速に情報伝達をしていきたい。</p>			
生徒会指導	生徒による自主的・創造的な生徒会活動を推進する。	生徒総会や様々な生徒会行事について、自治の精神に基づき、役員が中心となり、生徒主体の活動となるように指導する。	B	<p>・学校の活性化を図る上でも生徒会役員の働きは大きく、様々な学校行事に役員達は生徒を牽引し、その役割を十分果たしてきた。生徒の多くが募金や通学路清掃などのボランティア活動に参加している。しかし、それらの活動の趣旨を理解し、自発的に取り組もうとする生徒は一部であり、やらされているという感じを漂わせている生徒もいる。多くの生徒にとって、自分たちの生徒会であり、自分たちの活動であり、一人一人の生徒が学校を変えていく主体であるという自覚は乏しい。その原因は様々な事象が生徒の手から離れたところにあり、生徒にとって自分たちの問題と考えられないためだと考えられる。様々な問題への関心や気づきを増やすために生徒個々の意識を高める工夫が必要と考えられる。</p> <p>・敵高祭は前年度の反省を生かし、日程や形・内容を変え、皆さんの協力のおかげで無事終えることが出来た。生徒会役員は開会・閉会行事の企画に精一杯であり、今までの形態を大きく変える発想までたどり着いていない。ただ、多くの生徒にとっては素晴らしい文化祭を作り上げたという達成感もてる行事であり、愛校心を高め、良い思い出を刻むことにつながったと考える。学校説明会でも中学生に本校の素晴らしさを強く印象づけることができた。</p>	概ね良好である。	
	生徒の意識を高める中で、互いに信頼しあえる学校づくり、さらなる学校の活性化を推進する。	通学路清掃や募金活動に多くの生徒が参加するよう指導し、生徒が社会参加について自ら考え、行動する資質を養い、社会性や責任感、ボランティア精神を育むように指導する。	B			
		敵高祭の企画を進化発展させると同時に、生徒全員が協力して魅力的な文化祭を成功・完成できるように指導する。	A			

評価項目	具体的目標 (評価小項目)	具体的方策・評価指標	自己評価 結果 (A～E)	成果と課題	改善方法等	学校関係者 評価(結果・分析) 及び改善方法		
進路指導	進路を自主的に選択・決定できる力を育成する。	「先輩の話を聞く会」や進路講演会、大学見学会などの開催、職場体験事業等の紹介などをとおして、生徒の進路選択の意識向上やキャリア意識の醸成を図る。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学見学会では留学生との交流に向けて事前学習に積極的に取り組み、昨年度よりさらに充実した内容となった。</li> <li>・「先輩の話を聞く会」では多くの卒業生から在校生に話をしてもらうことができた。キャリア教育を意識し、ホームルームの充実を図りながら、進路講演会や集会等を通して生徒の進路実現に向けて取り組んだ。</li> <li>・職場体験事業でも看護体験等の他に、県立教育研究所がとりまとめる休業中の職場体験事業に昨年度よりも多くの者が参加をした。</li> <li>・高大連携の取り組みでは希望者に対して大学の講義を体験させることができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進路講演会、HRおよび大学見学会等がさらに生徒のキャリア意識の育成や進路保障につながるよう実施時期や内容の検討を行う。</li> <li>・新しい入試制度と関連付けて、高大連携・高大接続の意識の醸成と、生徒が社会の変化に主体的に対応できる力を身につけさせる。</li> </ul>	概ね良好である。		
		各学年と連携し、進路ホームルームや総合的な学習の時間の充実に努め、生徒の進路実現に役立てる。	B					
	進路目標達成に向けて支援を行う。	生徒の進路目標実現のため、生徒及び保護者へのさまざまな情報の発信に努める。	B				<ul style="list-style-type: none"> <li>・各学年で保護者対象の講演会を適切な時期に実施することができた。1年生保護者対象の類型登録説明会の際には、大学進学後を見据えた進路実現のための講演会を実施した。</li> <li>・模試の実施回数を精選した上で、模試対策講座を行った結果、生徒に模試の復習の重要性を意識づけることができるなど、一定の効果があった。</li> <li>・夏期講習では各教科が取り組みやすいように期間を長く設定し、かつ教科の独自性が出せるような方法に変えた結果、生徒が主体的に学ぼうとする意識づけを行うことができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き、各教科の模試に対する分析を充実させ、分析結果を生徒に還元・指導できる模試対策講座を実施する。特に、来年度から大学入学共通テストが実施されることを踏まえて、各教科で生徒がつけるべき力を分析し、授業や講座等で還元できるようなサポートを行っていく。</li> <li>・入試制度の変化を常に意識しながら、生徒・保護者に情報提供を行い、安心して受験に臨める体制作りを進めていく。</li> </ul>
		進路目標達成に向けた学力を確立するため、校外模試への取り組みや各期講習・土曜講座等の充実を図る。	B					
人権教育	生徒の人権意識をより確かなものとするとともに、主体的に取り組む姿勢や実践力を身に付けさせる。	毎月の「人権を確かめあう日」の取組を確実に実施し、生徒が社会や日常生活における人権問題に関心をもち主体的に取り組めるよう、内容の充実を図る。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「人権を確かめあう日」は年間9回(号外2回を含む)発行している。そのうちの4回分は、生徒が記事を選定し、コメントを作成した。生徒の視点を反映した記事選びやコメントは、アンケート結果などを見ても、生徒たちから好評価を得ている。その点は大きな成果であり、次年度も継続していきたい。SHRでの展開を考えて「10分程度で読める内容のもの」という要望も聞かれるので、内容・分量ともに適切なものにすることが課題である。</li> <li>・人権教育HRをより充実したものにするために、事前・事後の研修のあり方、生徒が主体的に取り組めるHRのあり方を模索することが必要だと思われる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「人権を確かめあう日」については、生徒が関わる機会を今後も設け、生徒自身が人権課題により関心をもち主体的に取り組む機会となるよう工夫する。</li> <li>・また、人権教育HRについては、事前研修で提案された案を、担任の先生方を中心に補足・拡充していただいているが、その情報交換の場を活性化させていきたい。また、本年度の反省事項を次年度に生かし、生徒の実態に応じたHRとなるように、今後もHR案の見直しに取り組んでいく。</li> </ul>	概ね良好である。		
		人権教育HRでは、生徒が主体的に取り組むことができるような内容及び展開方法を考え工夫する。	B					
	人権教育行事に取り組むとともに、解放研活動の再建を図る。	人権講演会及び人権芸術鑑賞会の内容を充実させ、事前事後指導の手立てを設けることで、得られたものを確実なものとする。	B				<ul style="list-style-type: none"> <li>・人権芸術鑑賞会では映画を鑑賞し、生徒の感性に訴え、感動体験と共に「人権や生命」について考える機会を持つことができた。生徒・保護者からの反響も大きかった。また、各種人権講演会においては専門の講師による具体的事例の説明やワークショップなどを通して生徒たちは様々な人権課題に対して理解を深めることができた。</li> <li>・解放研活動については1年生部員が1名のみの細々とした活動であるが、活動を継続させることができた。「人権を確かめあう日」のコメントも部員が2回書いた。『鉄鎖』を発行するには至らなかったが、1年生の部員の活動としては一定の成果が見られたと考えている。活動をどのように広げていくのが今後の課題である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・来年度の人権芸術鑑賞会は演劇の年で、ミュージカル「松浦武四郎・カイ・大地との約束」を鑑賞する予定である。事前事後の学習を充実させて、学習効果を高められるようにしたい。</li> <li>・解放研活動については、本年度は一定の成果も得られたので、次年度はその活動内容を充実させるとともに、活動を多くの生徒に知ってもらえるように広報活動にも力を入れたい。</li> <li>・他の分掌や学年との連携を密にしながら、生徒のなかまづくり、よりよい人間関係の構築に今後も努めたい。</li> </ul>
生徒が互いに支え合い、信頼し合える人間関係の構築に努めるとともに、解放研活動の充実を図り、機関紙『鉄鎖』を発行する。		B						

評価項目	具体的目標 (評価小項目)	具体的方策・評価指標	自己評価 結果 (A～E)	成果と課題	改善方法等	学校関係者 評価(結 果・分析) 及び改善方 法
人権教育	教職員自らの人権意識を高め、保護者との連携を深める。	生徒の課題の把握と理解に即した研修を計画し、全体研修を年2回以上実施する。	A	・職員研修を2回実施した。1回目の研修は教育相談部との合同研修で、アンケート結果を活用して生徒の実態把握を目的とした。2回目の研修では河合隆次先生に「部落差別と教育の課題について～いま私たちができること～」という演題で講演を行っていただいた。研修において、質疑応答の時間を十分に確保できなかったことが課題である。先生方が、人権教育HRを行う際に感じておられる悩みや工夫されている点などを出し合い、共有できるような機会をもっと設けていく必要があると思われる。 ・今年度の本校人権教育の個々の取組については、「熱れ」(4回発行)にまとめることができた。「熱れ」の発行は、本校の人権教育を保護者に伝える良い機会になっている。	・職員研修については、具体的に何が求められているのかを把握して、今後も先生方のニーズに合った内容や講師選定を目指したい。HRの事前・事後の研修が、先生方の工夫や悩み、生の声を出し合い、それらを互いに共有する場となるよう工夫していきたい。 ・また、今後も「熱れ」「人権を確かめあう日(号外)」などを発行し、保護者への啓発活動を継続したい。	概ね良好である。
		保護者向け「熱れ」を年4回発行し、生徒の状況を知らせるとともに保護者への啓発紙とする。	A			
保健体育	健康の実態把握及び保持増進のための啓発に努める。	健康診断を円滑に実施し、すみやかな医療勧告を実施する。	A	・う歯の保有率が少なく、また、治療勧告書を配付すると、すぐに医療機関で検診を受ける等、生徒や保護者ともに健康への意識は高い。しかし、治療を受けていない生徒もいるので、継続的に声をかけていきたい。 ・保健室利用者に対して担任と連携し、また、保健室利用の多い生徒や、心がしんどい生徒に対しては、スクールカウンセラーとも連携をとった。 ・保健委員会活動として、保健委員と部活動代表者に対して、榎原消防署から救急救命士に来ていただき、救急法講習会をおこなった。生徒は、熱心に受講していた。今後も実施していきたい。	・担任やスクールカウンセラー等と連携し、心身ともに健康な高校生活を過ごせるように支援したい。 ・保健だよりの発行や電子掲示板の掲載を増やし、健康の保持増進のため、情報を提供したい。 ・緊急時に対応できるように職員を対象にしたアレルギーに対応するDVDの視聴や、救急法講習会を実施したい。	概ね良好である。
		保健室利用者について保健室利用カード等を活用し、担任等と連絡を密にする。	A			
		掲示物等を活用し健康の保持増進のための啓発活動を実施する。	B			
保健体育	体育関連行事への意欲的な参加と安全に配慮した運営をする。	保健体育の授業時の指導を通じて、記録等に関する生徒の意欲や向上心を高揚させる。	B	・昨年度に比べると3学年全体でA判定が21名増えている。特に2年生は昨年1年次66名から104名(男子66名・女子38名)と38名増えており、3年生が2年次91名から97名(男子72名・女子25名)と6名増えたのに対してかなりの増加である。一方1年生59名(男子21名・女子38名)7名減で昨年の1年生と比較して1クラス減なので、人数的には大差はないように見えるが女子より男子の人数が少ないのは過去に例がない。1つの例をあげるなら授業でのソフトボールが今まで見てきた生徒の中で一番出来ない。今後同じような身体能力の生徒が入学してくると運動部活動の行く先に不安を感じる。 ・体育的行事では運動部員を中心に運営活動ができていますがその部分も含めて心配である。	・天候によっては測定出来ない種目もあり予定通り記録を測定出来なかつたりする場合があるが出来るだけベストコンディションで測定したり同記録の生徒と競わせたりして記録向上意欲を持たせる。 ・活動する際は安全確保の観点から、施設、設備の利用時のルールやマナーはもちろん事故やケガにつながらないように運動時の服装等も体育の授業時はもちろん運動部員にも徹底をはかる。	概ね良好である。
		職員会議、体育委員会を通じて、職員および生徒に申し合わせ事項を徹底させる。	B			
		体育委員および各運動部員も運営に参加させながら、安全に配慮した計画のもと、充実した活動を目指す。	B			
環境整備	校舎内外の整理整頓・点検整備を進める。	安全点検を年2回実施して集約を提示し、教職員の共通理解に努める。	B	・安全点検、床面塗油、春・秋の落ち葉清掃など定期的に決まった美化活動は、滞りなく行われている。 また安全点検は事務室、業務員さんとの連携のもと、スムーズに改善されているが、施設や備品の老朽化も問題である。 ・リサイクルコーナーなど、廊下等公共の場におけるリサイクルやゴミ処理の状況があまり良くない。教室前のリサイクルコーナーは、最も近いクラスで担当してもらったが、できれば全体での意識向上を図れる方法があれば良い。 ・普段の清掃において、廊下や階段など隅々まで丁寧な清掃が出来切れていない現状がある。 ・大掃除の時間が短く、また担当箇所が少ないので、生徒が余ってしまい、効率的な清掃につながらないケースもある。特に、除草作業は、監督が付きにくく、時間も短いので、そのあり方は毎年の課題である。 ・トイレ清掃は監督の尽力で綺麗な状態をほぼ維持できているが、生徒のトイレ使用のマナーや意識が年々悪化しており、生徒への啓蒙が常に必要である。	・素直な生徒が多く、教員が要求すればそのレベルにまで丁寧な清掃、私物の整理等をしてくれるものと期待できる。 ・ものを大切にすることや、処分してくれる人の立場に立つことなど、ホームルームや部活動等、機会を捉えて啓発し、生徒の美化意識向上につなげていきたい。 ・大掃除も月末だけでなく、各行事の前に意識をさせて学校全体で美化活動につなげていきたい。特に学期末の懇談前の清掃のあり方を再考したい。 ・除草作業については、普段の生活でほとんど経験しておらず、あまり効率的ではないので、業務員の方とも連携をしながら、そのあり方を検討していきたい。	概ね良好である。
		循環型の社会を目指し、リサイクル分別回収の活性化を図るとともにゴミの減量をめざす。	C			
		校内美化に関する情報を定期的に発信する。整備委員を中心としてロッカー周辺部の清掃・整備を行う。	C			
		体育大会、文化祭などの学校行事において、ゴミの減量やリサイクル、清掃の徹底を図る。	B			
	自主的な清掃・美化活動を推進する。	日常の清掃にきめ細やかに取り組む。特にトイレ清掃の徹底を図る。	B			
		春・秋の校庭の落ち葉掃きを整備委員を中心として実施する。除草作業を適宜実施する。	B			
	年2回の床面塗油を計画的に実施し、歴史のある校舎を大切にすることを育む。	B				

評価項目	具体的目標 (評価小項目)	具体的方策・評価指標	自己評価 結果 (A～E)	成果と課題	改善方法等	学校関係者 評価(結果・分析) 及び改善方法
文化図書	読書活動を推進する。	文化図書委員の活動を中心として、生徒が読書に親しむ機会を設定する。具体的には、ライブラリーニュースの充実、本の展示広報の工夫を行う。 図書館が生徒にとって身近なものになるように、金魚鉢通信や掲示板の活用などの広報活動の工夫、参加しやすい読書会の企画開催、授業での利用の推進、文化部との連携を行う。	B B	・委員会活動を「展示」と「ライブラリーニュース」に分担し、委員一人一人が役割と責任をよく果たしてくれた。 ・今年度は、ビブリオバトル2回と音楽科演奏会1回の計3回の文化講座の開催になった。ビブリオバトルでは、昨年に引き続き大阪大学の学生との対戦も実現し、よりレベルが上がった。また、全国高等学校ビブリオバトル県予選にも参加した。図書委員をはじめとした参加者にとって有意義な時間を過ごせたと思う。 ・読書会は、実施できなかった。 ・文化行事においては、今年度より文化部発表会を畝高祭の日程の中で実施することとなった。司会進行や運営など生徒が中心になって主体的に取り組めた。かるた大会も、問題なく実施できた。	・図書委員がさらに読書に興味を持ち、アピールする場を増やし、委員会活動や文化行事に積極的に参加するよう、一層の工夫を行う。読書会の内容や実施方法を検討していく。 ・現状、本の購入予算が厳しく、生徒達が興味を持つ新しい本を購入できない状況である。「金魚鉢通信」や「ライブラリーニュース」で本の魅力を発信しながら、蔵書を増やす方法を検討していく。 ・文化行事の企画運営に、更に生徒達が気軽に主体的に参加できるよう、教員と委員とのより良いコミュニケーションを図る。	概ね良好である。
	文化行事を企画運営する。	生徒が主体的に行動できる文化行事を企画運営する。読書オリエンテーション、芸術鑑賞会、新春小倉百人一首かるた大会、ビブリオバトル等の文化講座を生徒が運営し、参加できるように実施する。	A A			
渉外	育友会活動を充実・発展させる。	育友会関係の行事を精選し、本部役員を中心として育友会活動が円滑に運営できるようにする。 育友会活動についての情報発信に努めながら、学校と家庭の連携を密にする。	A B	・役員会や各種専門部会の運営が、本部役員を中心に円滑に進められた。 ・今年度からのクラス数減に伴い、実行委員の人数や育友会予算も減っていく。育友会の各活動について、見直しの必要がある。 ・育友会報「うねび」が、県高P連の広報誌コンクールにおいて5年連続で「優良賞」を受賞し、今年度は近畿高P連で「会長賞」を受賞した。	・クラス数減に伴う実行委員の人数と育友会予算の減少を受けて、各種専門部の組織改編等を検討していく。 ・育友会の各行事については、本年度の状況や問題点を踏まえ、必要に応じて精選や内容の改善・変更を検討していく。 ・実行委員(学級役員)の選出方法や専門部会への配属方法を再考する。	概ね良好である。
	同窓会との連絡・調整を円滑に進める。	昨年度の同窓会総会において基本計画案が承認され、人事選考委員会で新体制における役員を選任中である。今後、新たに設置された事務局を中心に、新体制での同窓会活動が円滑に進むよう、協力していく。	B B	・人事選考委員会を中心に、会長・常任理事・理事の再選出を行い、同窓会の活性化へ向けて動き出した。 ・同窓会の事務局が発足し、同窓会行事については事務局を中心に進めている。渉外部長・副部長が事務局のメンバーに入り、事務局と学校との連携を密に取りながら同窓会行事を進めている。 ・本年度、同窓会報「金鶏」を一新した。	・事務局と学校との連携や業務の分担をさらに進め、同窓会のすべての運営を事務局中心に円滑に行えるようにする。 ・金鶏会創設100周年(2022年)に向けて、学年理事を中心に各会期の連携を密にしていく。 ・事務局会議や日頃の業務を行うことのできる事務局専用の部屋を設置したい。	
	学校生活における安全の確保及び環境整備に努める。	定期的な巡視を行い、不良個所などを早期に発見するとともに、早急な修繕・補修などに努め、大震災を見据えた生徒の安全対策が図れるように努める。	B	・施設・設備の老朽化により、故障箇所等が多かったため、優先順位の高いものから緊急予算要望等を行い、順次修繕を行った。しかし、築後80数年が経過していることから、施設・設備において不具合な個所がまだ多数見受けられる。	・生徒、職員の安全と教育活動に支障がでないよう、未修繕箇所については校内で優先順位を精査しながら、関係部署に粘り強く予算要望を行い、計画的な修繕に取り組んでいく。	
事務	光熱水費等学校管理経費の更なる節減に努める。	厳しい県財政の状況下において、一般管理経費などの節減は所属としての目標設定が不可欠である。平成31年度は、光熱水費を含めた管理経費の執行額を前年度以下にするように努める。	C	・光熱水費の節減について、教職員に呼びかけを行うとともに、エアコンの温度調整をこまめに行った。しかし、電気代及びガス代については、昨年度より執行額が増加してしまった。学校全体で、電気、ガス、水道等の適正な使用に取り組む必要がある。	・今後も、電気、水道、ガス等の適正な使用に向けて、教職員や生徒に対し周知を行っていく。	概ね良好である。

評価項目	具体的目標 (評価小項目)	具体的方策・評価指標	自己評価 結果 (A～E)		成果と課題	改善方法等	学校関係者 評価(結果・分析) 及び改善方法
第1学年	自ら考え、行動できる生徒の育成	学習活動の様々な場面で「自分はなぜそうするのか、何をすべきなのか」を考えさせることで、自ら考え主体的に行動する習慣を身に付けさせる。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入学時よりも落ち着いて行動できるようになってきている。</li> <li>・自ら情報を収集して自分に必要なことを考え判断して行動したり、何故そうするのかを理解して行動したりできている生徒も増えているが、指示されない限り何も行動に移さない生徒もまだまだ多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・細かい指示を伝えるときと、そうでないときに分けて指導をする。</li> <li>・HRや授業を通して社会や企業が求める人材について話し、生徒に考えさせる。</li> <li>・教員が指示した方がスムーズにいく場合があり、どうしても言ってしまうようになるが、少し我慢して生徒に任せてみるという「待ち」の姿勢を大事にする。</li> </ul>	
	規範意識の向上	全職員の共通理解のもと、服装指導や遅刻指導を行い、集団生活における規範の重要性を理解させる。	C		<ul style="list-style-type: none"> <li>・年度当初は幼い面も見られたが、HR等を通じて次第にルールをわきまえるようになってきている。一方、マナーやエチケットが身につけていない生徒もまだいる。</li> <li>・服装指導や遅刻指導はクラスによるバラつきがあるように感じる。もっと全体で統一すべきである。</li> <li>・セーター等を制服からはみ出させて着用している生徒は少ない。</li> <li>・SNSの使い方について実施したHRでの生徒の様子や発言内容をみると、しっかり考えれば正しい判断ができていたため、それを日常的に意識できるようにさせていきたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・チャイムの鳴りはじめに入室していることを徹底させられるよう、期間を決めてでも担任・副担任が2人で見守る機会を作ってはどうか。</li> <li>・HRで生徒の様子を注意深く観察するとともに、始業式等の服装・頭髪検査だけでなくHR時や教科指導時、廊下での会話時など普段から全体で共通の指導が必要。また、3学年を通じた学校全体としての一貫した指導が必要である。</li> <li>・全体で代表の先生がきちんと規準を示してくださっているのに、生徒に不平等がおきないよう各クラス担任や教科担当者が責任をもつ必要がある。</li> <li>・SNSの使い方など、HR以外でも日常的に話をしていくことが大切である。</li> <li>・服装頭髪等に関して、入学時(前)に保護者に話をしておくのが有効だと考える。</li> </ul>	
		学習活動のあらゆる機会をととして、社会におけるルールやマナー、特に情報モラルを身に付けさせる。	B	B			
	豊かな心の育成	ホームルーム活動や授業、学年集会などを通して、他人の立場で物事を考えることができる人材を育成する。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・広い視野をもち、周囲を思いやることができる生徒が多いが、一部に心無い行動をとる生徒もいる。</li> <li>・挨拶を元気に返せる生徒が多くなってきたが、まだまだ少ない。自分から元よく挨拶できる生徒も少なく、また、朝廊下ですれ違った時や試験期間中等余裕の無い時は、挨拶をしない、返さない生徒もいる。先輩への挨拶は意欲的にするが、教員や来校者への挨拶は不十分である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・普段から生徒とコミュニケーションをとり、生徒の言動に注意するとともに、周囲に迷惑をかけた時には特に厳しく指導する等の方針を徹底していきたい。</li> <li>・引き続き根気よく、職員からの歩み寄りを大切にするとともに、クラスでも挨拶をする習慣をつけさせる。</li> </ul>	概ね良好である。
		学校生活において、職員からも積極的に挨拶を仕掛けて挨拶の励行を推進し、活気のある学校生活が送れるようにする。	B	B			
基礎・基本の定着と進路目標の設定	基礎・基本の重要性や有用性を授業で説明し、自主的な家庭学習を習慣化させ、学力の向上を図る。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・真剣に授業を受け、真面目に努力する生徒がほとんどであるが、そこに計画性が加えられるような指導が必要。</li> <li>・中学から高校への学習方法の変化にはじめは戸惑う者もいたが、2学期以降は自らの学習スタイルを確立できた生徒が多かった。また、オープンキャンパスやSSH連携事業など、多くの研修の機会に積極的に参加して自分の進路実現に役立てようとする生徒が多かった。</li> <li>・教科で週末課題を出していただけだったので家庭学習の習慣化につながったのではないかと。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目標を明確にさせ、授業を大切にしている指導を継続する。</li> <li>・家庭学習が定着していない生徒には、部活動、塾等の時間とのバランスのとり方など、具体的なアドバイスを個別に行う。</li> <li>・各教科の指導方針や課題に対する考え方を共有する。</li> <li>・オープンキャンパス等に参加した生徒に簡単に報告書を作成させ、クラス内で閲覧させるなどして共有できれば、良い刺激になるのではないかと。</li> </ul>		
	進路ホームルームをととして自らの進路目標を設定させ、大学見学会などへの参加を促し、進路選択への関心を高めさせる。	A	A				
グローバルな視点をもって地域で活躍する人材としての基礎力の育成	学校設定科目を含めた日々の授業における探究活動をととして、基礎的かつ専門的な知識および研究技能を培い、課題研究を行う上で必要な基礎力を高めさせる。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学年の教員間で、課題研究の展開方法や今後の見通しの共通理解がなされているため、次年度に向けて準備ができていく。気づきノートから課題研究への興味関心が芽生え、課題研究を楽しみにしている生徒も多く、意識が高まってきているように感じる。研究内容の交換会での生徒の積極的な様子を見て、改めて、このような活動の重要性を実感した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・探究し他者と協働する面白さや達成感を味わわせるよう全職員のサポートが必要である。課題研究の進め方等、教員同士が共通理解するするためにかなりの時間を要すると考えられるため、定期的に連携をはかる機会をもつことが大切。</li> </ul>		
	課題を発見し、他者と協働しながらその課題を掘り下げさせることで、グローバルな視点と主体的に思考し行動する力を養う。	A	A				

評価項目	具体的目標 (評価小項目)	具体的方策・評価指標	自己評価 結果 (A～E)		成果と課題	改善方法等	学校関係者 評価(結 果・分析) 及び改善方 法
第2学年	自ら考え、行動できる生徒の育成	学習活動の様々な場面で「今、何をすべきなのか。何から、すべきなのか。自分は、なぜそうするのか。」を常に考えさせることで、自ら考え主体的に行動できる生徒を育てる。	B	B	・やるべきことがはっきりしていたり、指示されたことについては真面目に行うことができるが、様々な場面で何をすべきかを自ら考えて行動できる生徒を育てる工夫が不足していた。常に自分で考えて行動する習慣を身につけさせたい。	・授業やHRはもちろん、部活動、学校行事、清掃活動などあらゆる場面で、教員側からすぐに指示を出すのではなく、できるだけ生徒に自分は何をすべきか考えさせる機会を多く作っていく。させられているだけの行動や、言われたとおりにしていけば安心という意識の改革が必要である。	概ね良好である。特に、2学期に実施した台湾への研修旅行を通して、生徒たちは英語力をはじめ、よりグローバルな視点で物事をみる大切さを学んだ。
	規律ある生活習慣の育成	自己管理意識を高めさせ、遅刻が続く生徒には登校スタイルの改善を促す。頭髪・服装等の生活指導に関しては、学年全体で継続的にいき、生徒たちの規範意識の向上を図る。	B	B	・遅刻については、無遅刻の生徒が多い中、一部の特定の生徒で生活習慣の乱れ等から遅刻を繰り返す、かなりの遅刻数になっている。個別の継続指導が必要である。服装・頭髪については大きな違反はないが、細かいところでルーズな部分も見受けられ、日々指導を続けていく必要がある。	・職員間での共通理解や指導方法を徹底し、HR、授業、学校行事、部活動などあらゆる場面で統一かつ継続的に指導を続けていく。 ・家庭や部活動における人間関係において、問題を抱える生徒に寄り添い、学校カウンセラーとも協力しながら解決を支援できる体制を構築していく。	
	豊かな心の育成	ホームルーム活動や学年集会等をととして、自らの意識と向き合うような活動をより多く取り入れ、人権意識を常に確認させながら、人権尊重の精神を深めさせ、他人を思いやる豊かな心を育成する。	B	B	・1年間で「人権学習」として講演会やHR活動などの多くの機会を設けていただいた。その中で自分のこととして捉え、友人を思いやることができ、悩みを抱える生徒を支えてくれる生徒も多く見られる。しかし、一部の生徒であるが、自分のことしか考えず、他人を不快にさせたり、時には傷つけたりするような言動や発言も見受けられる。 ・学年行事やクラスの活動では、自分の役割を考え、積極的に行動できる生徒が増えてきた。その反面、他人任せで終わってしまったたり、逆に自己満足だけして周囲と協力できない生徒もいるのが少し気になる。 ・「職業人から学ぶ」において、積極的に質問する様子が伺え、進路に対する意識が高まっている。 ・目標に向かって努力する生徒が徐々に増えてきた。ただ、進路に関する迷いや学力不振から学習意欲に欠ける生徒も見受けられるので、進路実現を目指して学年全体で頑張っていく雰囲気を作っていきたい。	・HRや授業での言動だけでなく、日頃の生徒たちの様子を注意深く観察し、適切な指導や声かけを行っていき、教員間での情報交換を密に行っていく。「差別はしてはいけない。人権意識を高めなければならない。」ということと併せて、「自分も差別をしているかもしれない。これから差別意識が芽生えるかもしれない。」ことも意識させ、「そのときに、自分の意識や相手とどう向き合うのか。」ということを考えさせる機会を増やしていく。 ・学年行事やクラス活動において、生徒が自ら考え、発言できる機会を増やし、積極的に行動できる生徒を育てていく。 ・授業や個別指導を通じて、それぞれの生徒に応じた学習方法を指導するなど、継続的に学習することの大切さを実感できる機会を増やしていく。 ・進路目標の設定に関しては単なる紹介に終わらず、モチベーションを高めるような働きかけを工夫していく。	
		学校行事等をととして、集団生活における個人の役割を認識させ、自ら考え、適切に判断し、共に行動できる力の育成に努める。	B			B	
		進路指導部と連携して生徒に適切な情報を提供し、基礎学力の向上とキャリア教育を推進し、自らが進路を切り開く意欲を持たせる。	A			A	
	グローバル・リーダーの育成	各科目の学習をととして、主体的に課題に取り組み、協働して問題解決へと導くリーダーを育成する。	C	B	・「共通テスト」に向けて、各教科で授業の中や定期考査などで、文章理解力や要約力、またコミュニケーション力も養ってきた。これからも授業等ですべての教科の基礎となる「言葉の力」をさらに養っていききたい。 ・グループで学習する機会が多く、協働して問題解決する積極的な態度が育ってきている。 ・「現代社会」や「奈良TIME」において、活発に意見交換をしたり、独創的な発想も見られ、プレゼンする能力も養われ、表現力が豊かになってきた。ただ、このような取組に対して消極的な生徒もいる。 ・海外研修旅行やフィールドワークなどを通して、視野が広がり、多様な文化への理解も進んだ。また、自らの意志や考えを相手に伝えようとする意欲や、他人との協調性、コミュニケーション力が養われた。	・「共通テスト」に必要な文章理解力や要約力、またコミュニケーション力を育てるために、授業の内容や定期考査問題の作成等に各教科の職員の相互理解を高めていく。 ・「総合的な学習」などの取組が、自分の将来にどのようにつながっているのかを説明するとともに、生徒のニーズに合わせた課題を設定していく。 ・課題研究の集大成を迎え、これまでに取り組んだ内容を振り返り、自身に身についた力を認識させる。 ・未来創造会議に向けて、それぞれが主体的に取り組み、リーダーとして活躍できる場を設定する。 ・各教科の授業を工夫し、進路目標を達成するために必要な思考力、判断力、表現力の育成にも力を入れる。 ・「奈良TIME」の時間を活用して、教科学習との連携により学習効果を高められるようにする。	
		課題研究をととして、自らの意見や考えを論理的に表現し、相手の立場を尊重して討論する思考力、判断力、表現力の育成を図ることでグローバル人材としての資質を養う。	B			B	
		研修旅行をととして、諸外国の多様な文化を理解させ、海外の高校生・大学生と意見交換できるコミュニケーション力を身に付けさせる。	A			A	



評価項目	具体的目標 (評価小項目)	具体的方策・評価指標	自己評価 結果 (A～E)	成果と課題	改善方法等	学校関係者 評価(結 果・分析) 及び改善方 法	
第3学年	自ら考え、行動できる生徒の育成	学習活動の様々な場面で「なぜそうするのか、何からいつまでにすべきか」を考え、またその過程で「このままでよいか、よりよい方法はないか」を考えさせることで、常に自ら考え主体的に行動できる生徒を育てる。	B B	・与えられた情報だけに頼って、自分から情報を得ようとしたり先のことを調べたりする積極性には少し物足りないところがあるが、授業中などに感じた疑問等については積極的に質問をしに行く生徒が増えてきている。	・学習計画や、進学書類作成のための計画をより早い段階でさせたり、ホームルーム等でそれらの計画を練る時間を設定する。	概ね良好である。	
	自律的な生活態度の育成	生徒の自己管理意識を高め、校則を遵守させるとともに、社会のルールやマナーを身に付けさせる。	C	・落とし物や忘れ物は依然として多数ある。ゴミの分別についても徹底し切れていない。 ・人権作文などを通して、自分の生き方や他者との関わりを真剣に考えようとする姿勢が身に付きつつある。 ・学校行事等では自分の役割をきちんと認識し、周囲と協力して成功させようとする姿が多く見られた。	・落とし物等は保護者にも連絡する機会を作るなどして、実態を認識してもらう。 ・周囲の身近な人の声を聞いたり、意見に触れることで、自分と周囲との関わりを具体化できる機会を増やす。 ・発表ばかりではなく、自分の心と静かに向き合う時間もより多くとれるようにする。		
		ホームルーム等とおして、人権尊重の精神を深め、他人を思いやる豊かな心を育成する。	B B				
		学校行事等とおして、集団生活における個人の役割を認識させ、主体性と責任感をもって適切に行動できる生徒を育てる。	A				
進路実現に向けての学力の向上	生徒の実態に合ったよりよい授業を工夫することで、進路実現に資する学力の伸長を図る。	A	B	・夏期講習は例年より長く期間を設けて、希望する科目が選択しやすくなるなど、全体的に充実できた。 ・より高い目標を掲げ、4月当初の第1志望大学が1月時点でも変わっていない生徒が多くいる。特に、答えのみを求めるマーク式よりも記述式の学力の向上が顕著である。 ・大学入試新共通テストにおいて、英語4技能や記述式の導入など情報に振り回されることもあったが、周囲に惑わされずに粘り強い取組ができた。 ・進路室や図書室の自習スペースで学習する生徒が例年より多く、進路相談の機会も多くなった。	・多様化する進路希望に対応できるような講座の設定や、生徒のニーズを把握する機会を多く設ける。 ・新テストの導入に向けて依然不透明な部分もあるので、情報の収集とそれをより早く整理し発信することに努める。 ・塾などに頼り切りになるのではなく、自分で計画を立てて学習を進めていけるような時間や場所をより多く提供する。		
	生徒のキャリア意識を高めることで、主体的で、継続的な学習態度を育成する。	B A					
	きめ細かな進路相談を実施することで、生徒個々に応じた自己実現と第一志望の目標達成を目指す。	A					
グローバル・リーダーの育成	3年間通して研究してきた課題を整理し、自らの進路実現につながるように研究成果をまとめる。	B B	・効率よく課題を整理し、進路実現のための取組にもスムーズに切り替えができた。 ・課題研究のテーマを推薦入試等に生かし、より幅広い進路実現に繋がってきている。	・取り組んでいる課題学習等が将来どのような分野に繋がるのかをより明確に言語化させる。			
国語	国語文化を広く深く理解し、社会生活を営む上で必要な国語力を養成する。	予習・復習の習慣化を図り、生徒の自主的な学習態度を養うとともに、語彙・文法等の基本的な知識を確実に習得させる。	B	B	・提出物を丁寧に確認し、個に応じた指導を心がけているが、複数の教科の提出物を抱える生徒のなかには、指導通りにできない場合があった。 ・古語テストを実施し、古文読解のための語彙の定着を図ることができた。 ・予習については定着してきたが、知識や物の考え方を自ら確認し高めるような自主的な学習態度を養うことは十分にはできなかった。 ・ペアやグループワークで話し合いや学び合いの時間を多く設けたが、正しい答えを教えてもらう姿勢の生徒が多いことや知識の不十分さから、目標が「活動すること」に終始し、内容の掘り下げが不十分なことがあった。 ・言われたことはできるが、自ら課題を見つけ取り組み、主体的に行動することがうまくできないという生徒がいる。高い意識をもつよう導く必要がある。 ・担当者間の打ち合わせはその都度行うことができた。「学びのナビゲーター」を活用した。	・提出すべき課題が予習復習になっていることを実感させる指導が必要である。 ・予習の重要性を、できたと実感させる授業の展開により自覚させる。 ・小テストや予習を活かして基礎学力を充実させる。 ・考査や模試のやり直しを自ら取り組むように指導する。 ・学ぶ意義を常に確認させ、主体的に学習する姿勢を身に付けさせる指導を継続する。 ・たくさんのテキストにあたるせいで、より多くのことを教えるとするのではなく、生徒がゆっくり物考えたり話し合ったりして、能動的に考え活動できるようにするために、課題や教授内容を精選する。 ・担当者の共通理解を一層深め、課題を共有する方法を工夫する。	概ね良好である。
		辞書・参考書・問題集を活用しながら、指導法に創意工夫を凝らし、生徒の論理的な思考力、読解力、表現力の伸長を図る。	B				
		自分と異なる立場にある相手に自らの意見を発信したり、コミュニケーションを取ったりして、幅広い視野に立って協力しながら課題を追究し問題解決に導いていく力を身に付けさせる。	B				
		「学びのナビゲーター」を活用し、教材に応じた学習のポイントや、手段目標を明確にするため、担当者間の打ち合わせを密に行う。	B				

評価項目	具体的目標 (評価小項目)	具体的方策・評価指標	自己評価 結果 (A～E)	成果と課題	改善方法等	学校関係者 評価(結果・分析) 及び改善方法
地歴	日本史、世界史、地理への認識と理解を深め、主体的に生きる自覚と資質を養う。	歴史や地理に関心をもたせ、幅広い知識を身に付けさせる。自分たちの暮らしや考え方を客観的に分析し、それらがなぜそうなったのかを問う姿勢を養い、研究することの楽しさや意義を身に付けさせる。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>今年から始まった45分授業に対応した形での、教材の精選、授業の展開、アクティブラーニング型授業の実践について、情報共有を図りながらおこなうことができた。</li> <li>受験に向けての学習に取りかかるのが遅い生徒がまだまだ多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>限られた授業時数の中で、新テストで見られるであろう史料や図表、データを読み取って考えさせる授業をどのように入れ込んでいくかについて検討したい。</li> <li>担当者や科目・教科間の連携を密にし、課題設定や教材の工夫、指導方法や評価の仕方について提示・統一化していく。</li> <li>内容の精選に努め演習の時間を確保し、入試に対応できる学力を養成する方法を工夫していく。</li> </ul>	概ね良好である。
		史料や図表、地図、統計を有効に活用し、歴史事項や地理的事象の理解を深める。	A			
		各科目の授業内容を充実したものにするために、教員間の連携を密にし、科目をこえて研修を行う。	B			
公民	現代社会の特質や課題を把握させ、民主社会の一員としての自己を探究させる。	グローバルとローカルという2つの視点から、現代社会が抱える諸課題や、政治、経済、社会について学習する。また、自ら主体的に課題を設定し、その解決に取り組み、探究的な活動や発表を行うことで問題解決能力を養う。なお、2年生では奈良TIMEの活動との連携も図り、3年次に学ぶ政治・経済に対する学習意欲を高め、より発展的な学習につなげる。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>今年から始まった45分授業に対応した形での、教材の精選、授業の展開、アクティブラーニング型授業の実践について、情報共有を図りながらおこなうことができた。</li> <li>時事問題と絡ませたり、新テストを念頭に置いたデータの読み取りから考えさせる授業展開をおこなうことができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「総合的な探究の時間」とのつながりを考えた教材やテーマ選定、アクティブラーニングも含めた授業方法についての研究をおこなっていききたい。</li> <li>担当者や科目・教科間の連携を密にし、課題設定や教材の工夫、指導方法や評価の仕方について提示・統一化していく。</li> <li>新聞・ニュースなどの時事問題を有効に活用し、その問題を知識として知るだけでなく、課題に対する自分の意見を論理的に説明できる力を養う。また、内容の精選に努めながら演習の時間も確保し、入試に対応できる学力を養成する方法を工夫していく。</li> </ul>	概ね良好である。
		日本や世界の哲学・宗教を学ぶことにより、主体的な自己の在り方、生き方という倫理的課題を探究させる。	B			
		日本や世界の政治・経済を学ぶことにより、社会の構造を理解させ、時事問題にも関心をもたせる。	B			
		各科目の授業内容を充実したものにするために、教員間の連携を密にし、科目をこえて研修を行う。	B			
数学	数学における基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、様々な事象を数学的に考察し処理する能力を養う。	教員間で互いに授業を公開することにより、アクティブラーニングなど効果的な指導方法についての研修を計画的に実施する。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>本年度も若手の教員を中心に授業の公開を行うことができた。その他、校外の自主研修等に積極的に参加し、授業内容の向上に努めた。今後の課題としては各学年等で積極的に授業を公開していくことである。</li> <li>大学入学共通テストの試行調査問題の分析を行い、重点的に指導すべき内容等を確認することができた。今後の課題としては、より一層、情報収集に努めることである。</li> <li>各科目の担当者間で、授業の内容について、打ち合わせ等を行い、生徒個々の進路にあった授業を進めることができた。今後の課題は、大学入試共通テストに対応した指導をしていくことである。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>引き続き、教員の研修への参加を推進し、効果的な授業方法を研究して教員相互に共有したい。また、授業方法だけでなく観点別評価等の研修会にも積極的に参加していきたい。</li> <li>共通テストで求められる論理的思考力や読解力は、公式や定理の意味を理解していないと身につかないので、公式の証明等に時間をかけて授業を行っていききたい。</li> <li>学年の教科担当で、各単元ごとで打ち合わせ等を積極的に行い、45分授業に対応した授業の進度や、生徒個々の進路にあった授業展開など、生徒の実態に応じた教材選びや内容の精選を行っていききたい。</li> </ul>	概ね良好である。
		大学入学共通テストでは、主体的な思考力が問われるため、より柔軟な思考力や考察力が身に付くような授業展開・考査問題を検討する。	B			
		科目担当者間で授業内容などの打ち合わせを定期的に行い、観点別評価を意識した授業計画、考査作成を推進する。	A			

評価項目	具体的目標 (評価小項目)	具体的方策・評価指標	自己評価 結果 (A～E)	成果と課題	改善方法等	学校関係者 評価(結果・分析) 及び改善方法
理科	自然への関心・意欲を高め、基礎的・基本的な内容の定着を図るとともに、思考力・判断力を身に付ける。	生徒が無理なく理解できる教育課程・単元配列を開発し、早期に学力向上・進路実現につなげていく。	B	・1年の基礎3科目履修でようやく3科目とも全学年で履修が出来るようになった。 ・2年理型化学は本年度5単位となり、昨年より授業進度を早くすることが出来た。ただし、その授業進度についてこれられない生徒もいる。	・全学年で履修できるカリキュラムを維持していく。 ・来年度の3年理型化学には単元配列の再考が必要である。 ・来年度の2年理型は2科目6単位となるので、適切な授業進度に近づけたい。	概ね良好である。
		問題集・参考書等の副教材を活用し、自発的な学習態度・思考力・課題解決能力を身に付けさせる。	B	・2年理型化学では、副教材の図録をやめて、数研出版のチャート式を持たせている。家庭学習において、教科書だけでは捉えきれない内容を自学自習でおさえさせる効果がある。	・講習等で大学入試問題を活用して、受験に必要な学力の目標を持たせるとともに、思考力・判断力を養う。	
		観察・実験等を通して自然科学に触れ、自然の諸法則を理解させる。	B	・生徒実験は1年では各学期1回ずつ、2年では2回ずつできた。 ・演示実験は各教員で適宜行えた。	・現状より実験をふんだんに盛り込むには、2年理型での単位数増が望ましい。 ・3年の夏期休業中の理科先取り講座は、教えるだけで、十分な学習効果が上がっていない。来年度は先取り講座をやめて、違う方向での講習にしたい。	
		観点別評価を意識した評価用具の導入と作問を行い、理科離れ・理科嫌いをなくす。	C	・観点別評価を生徒に返した場合、どの場面でもどのように頑張らせることが観点別評価の向上とフィードバックに繋がっていくのかわからない。評価しただけで終わっている。	・観点別評価をどのように調査書に反映させていくかの具体的な取り扱いについて研修を深めたい。	
保健体育	運動技能の向上と生涯を通じて継続的に運動ができる資質や能力を育成する。	個の能力に応じて運動技能を高めるとともに、自発的、自主的かつ安全に運動を行い、公正、協力、責任、参画等の態度を育成する。	A	・個に応じた練習方法を学ぶことにより、自発的・自主的に運動に参加する生徒が増えている。グループのリーダーの育成が課題である。	・学習段階に応じたリーダーの育成について、技術・知識とともに、言語活動を充実させグループの運営を主体的に行わせたい。	概ね良好である。
		心と体を一体とし、健康の保持増進のための実践力を身に付けさせる。	B	・精神の健康・体の健康について学び、知識と実践力を身に付けている。	・アクティブラーニングを検証し、より主体的な学びの授業を展開させたい。	
		生涯を通じて自らの健康を適切に管理する資質や能力を育成する。	B	・健康を、身体・精神・社会的な側面から分析させ、正しい知識を身に付けさせている。学校・家庭・社会の生活での実践力を目指す。	・スポーツテスト結果の分析等をさせ、日々の生活の中での健康を考えさせたい。	
芸術	芸術の幅広い活動を通して、生涯にわたり芸術を愛好する心情を育て、感性を高め、豊かな情操を養う。	五感を鍛え、様々な用具・楽器の特性・技法を自主的に学ぶことにより、豊かな表現力の向上を図る。	A	・生徒の関心や知識が深まるにつれて、自ら考えて表現に臨もうとする生徒が増えてきた。 ・授業を楽しむ姿の中にも、表現力と集中力が養われた。	・授業で学んだ知識や技術を、生徒個々の表現に生かせるように、教材研究を工夫し、授業展開の幅を広げる。 ・より具体的な作例を提示するなど、指導方法を工夫する。	概ね良好である。
		芸術作品の鑑賞をとおして、その特徴や作者等について理解を深め創作活動に生かす。	B	・作品や楽曲の鑑賞を通して、作者の意図や作風、人間性、歴史的背景などに触れ、芸術作品をより深く味わい理解した。 ・主体的に学ぶ姿勢が培われたことによって、創作活動や表現活動に対するモチベーションも上がった。	・鑑賞教材の時間設定を検討し、生徒が興味や関心を持って、意欲的に取り組んでいけるように配布資料等も工夫する。 ・生徒にとって、より主体的な活動へとつながるように、「生活の中の芸術の働き」を考えさせるなど、さらに工夫を加える。	
		授業公開や教科の研究会への参加を積極的に行い、指導力の向上を図り、授業の質を高める。	B	・教科研究会への参加、展覧会や演奏会の鑑賞、また創作活動などを行い、授業の質を高める努力をした。	・他校の先生方と、授業展開や課題などの意見交換を重ね、授業の質を追求していく。 ・研修会への参加、県や市町村の講座への参加など、より広い視野に立って情報収集を行う。	

評価項目	具体的目標 (評価小項目)	具体的方策・評価指標	自己評価 結果 (A～E)	成果と課題	改善方法等	学校関係者 評価(結果・分析) 及び改善方法		
英語	学習の内容が生徒に定着するように、基礎・基本の徹底を図り、学んだことを用いて表現する力を育む。	観点別評価の研究を深め、授業の方法や評価において実践する。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・観点別評価について、各学年単位では実践できたが、教科全体として課題を共有できていない部分があった。</li> <li>・目的をもった指導を行うため、各学年担当で打ち合わせを行い、一定の方向性を確認して目標や指導内容、指導方針を定め、使用教材をよく吟味・精選して効果的な指導を行うことができた。</li> <li>・グローバル英語において、分割授業を実施することで、生徒の発話の機会を増やし、ALTと協力してきめ細やかな指導を行い、発信活動における基礎力を養うことができた。また、新しい教材を導入し、効果的な指導を行うことができた。</li> <li>・大学入試共通テストについて大きな変更があったが、速やかに生徒に情報を提供し、生徒の不安を解消するように対処することができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・次期学習指導要領について研修し、スムーズに移行できるよう準備を行う。</li> <li>・生徒たちに身につけさせたい能力やスキルから逆算して、各観点及び指導方法を定められるように取り組み、学年間の共有を図る。</li> <li>・大学入試で求められる学力を踏まえた上で、4技能をバランス良く身につけ、さらに、グローバル社会で求められる発信力を向上させられるよう、授業内容を工夫する。</li> </ul>	概ね良好である。		
		各学年の目標や指導内容、指導方法、使用教材を吟味・精選し、目的をもった指導を行う。	A					
		生徒に家庭学習の方法について具体的方法を指導する。また生徒の個々の実態に応じて、補充指導等を行う。	B					
		各教員が授業力の向上を目指し、互いの授業を公開し合い研鑽をつむ。	B					
		学校設定科目「グローバル英語」において発信活動における基礎を固め、生徒たちの言語活動が2、3年次においてより充実したものになるよう、指導の工夫をする。	A					
家庭	家庭生活に関する基礎的・基本的な知識と技術を習得させ、生活の向上に主体的に取り組む能力と態度を育てる。	実習を効果的に取り入れる工夫をし、家庭生活に必要な知識・技術を具体的に理解させる。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ほとんどの単元においても実習をすることができた。実習を通して、実践的な力が身に付くとともに、他者と関わり、協力しながら取り組んでいく態度を育てることができた。</li> <li>・45分授業になったが、昨年度までの内容ができるよう、実施方法を工夫した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・より効果的なものとなるように、実習内容の見直し、実施方法の工夫をする。</li> <li>・生徒に対して実習の目的・目標を明確にし、評価へとつなげていけるようにする。</li> </ul>	概ね良好である。		
		ホームプロジェクト・学校家庭クラブ活動により、家庭や学校、地域社会の生活の充実向上を図る能力と実践的態度を育てる。	B				<ul style="list-style-type: none"> <li>・夏期休業中の課題としてホームプロジェクトを実施した。テーマ設定については、例年こちらから大枠を設定していたが、来年度からの課題研究に向けて、自由にテーマを設定させた。内容的にはまだまだ浅いものが多かったが、さまざまなテーマがあり興味深かった。クラス内発表会を実施し、相互評価をすることができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ホームプロジェクトについて、生徒が自ら計画し実践できるように夏期休業前の授業で、時間をとって考えさせたい。</li> </ul>
		教科の研究会や研修会に積極的に参加し、指導力の向上を図る。	B				<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科の研究会や研修会に参加し、指導方法、観点別評価について情報を得、研修することができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他府県や企業などが実施する研修会などにも参加し、研修の機会を増やしていく。</li> </ul>
情報	情報の特徴と、情報化が社会に及ぼす影響を理解する。自主的にコミュニケーションを行う能力を養い、情報社会に積極的に参画する態度を育てる。	情報の収集・処理・発信などの情報活用能力や、プレゼンテーション能力を身に付けさせる。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1年では次年度の課題研究とタイアップし、プレゼンテーション技法について、「課題研究メソッド」から抽出した内容を3学期の授業と実習課題で学習させた。</li> <li>・1年では、「事例でわかる情報モラル」をテキストとし、情報モラルとセキュリティに関する実習課題を行った。</li> <li>・2年ではプログラミングやプログラミングの元となるフローチャート・アルゴリズムについて、スクラッチやVBAを用いて学習させた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他教科との連携を図り、ICTを活かす場面を作れたことが良かった。</li> <li>・生徒のスマートフォン使用はライン・ツイッターなどのSNSや、ゲームなど限定的であり、検索や情報を引き出し抽出することには決して慣れていない。</li> <li>・情報モラルやセキュリティに注意しつつ、より信頼性の高い情報を入手する方法については今後も指導を重ねていく必要がある。</li> </ul>	概ね良好である。		
		情報モラルとセキュリティに関する指導を徹底し、様々な場面で適切に対応できる態度を身に付けさせる。	A					
		情報と情報社会に関心を持ち、社会の情報化の進展に主体的に関わる態度を身に付けさせる。	B					